

オーティーエス(OTS)会長の田中洋はファッション物流のバイオニアである。アパレルのハンガー輸送という新事業を立ち上げ、シユエリ物流にも業界で初めて進出した。同社は、現在六つの物流拠点をもち、ファッション物流に関する一切の業務を行っている。ネット販売支援、品質管理、物流システムにまで業務を広げている。

小学6年から
家計を助ける

42年、東京の江東区砂町に生まれた。50年代前半、商売に失敗し体も壊した父に代わり母が区役所事務員の職を得て一家を支えたが、61年に父は脳出血で亡くなった。当時、定時制の工業高校に通い、卒業後も母を助けるため自動車部品店で働き続けた。その後、運送会社に転職した。大量輸送時代は70年代前半には終わり、70年代後半からは宅配便が広がった。

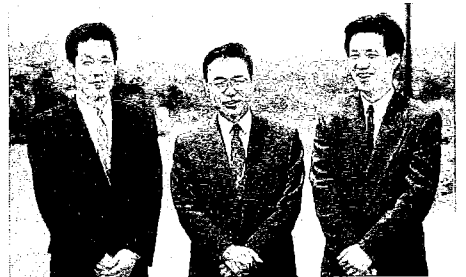


助けましたが、かえって、今に生きる貴重な体験が出来ました。父の失敗も反面教師となり、失敗を絶対したくないという気持ちが、かなり強かった。自動車部品販売会社の社長は堅い人で、多くを教わりました。そんな頃、運送会社社長から「うちに来ないか」と誘われ、67年に入社しました。縁を感じたのは母方の祖父が大正から昭和の始めにかけて北海道で運送会社を興して経営していたことです。祖父と同じ運送業に関わったのです。運送会社の時代も含めて私は「仕事が楽しく、何事にも前向き」で、やる気さえあれば何でも出来ると思って仕事をしてきました。

オーティーエス会長

田中 洋さん

上



田中洋社長(当時、中央)と、瑞江センター営業課の省掛昭宏氏(右)、葛西センター開設準備室の谷口伸夫氏(左)。88年、東京・葛西臨海公園の前で

たなか・ひろし

1942年1月2日、東京生まれ。6人兄弟の次男。母と兄の3人で、栃木県足利市に疎開し、終戦後、父の実家のあった東京・江戸川区葛西で育つ。子供の頃は江戸川や荒川でよく泳いだ。60年3月都立工業高校校定時制を卒業、自動車部品販売会社を経て、67年運送会社入社。86年10月オーティーエス創業。06年10月会長に就任。趣味はゴルフ、映画鑑賞や読書など。特に歴史物に関心が高く、好きな作家は重門冬二。

てくれないうか」との要望が出された。私は社長の許可を得て、別会社でのファッション物流管理という新規事業立ち上げの責任者として企画立案から実行まで進ま

もウチは関係ないよ。ウチの名前を使わないこと。プロジェクトチームのメンバー10人は連れて行ってもいいが、それ以外は駄目。運送事業も手掛けているじゃないかと申し渡され、制約が付けられました。独立後もこの約束は守り、今でも運送業は手掛けていません。むしろ、「運送業はやって駄目という制約」があったからこそ、大手の運送業者に復讐依頼で、色々なポイントがありました。86年10月、約20年間運送会社に勤務した後、44歳でOTSを創業した。

運送会社では運行課長として、安全運行に向けてスケジュール管理を任せられました。73年に第一次石油危機が起き、景気が悪くな

ファッション物流の先駆者

妻の一言で起業決断

り、運送物がなくなると、自動車部品だけではまずい、ということになりました。何か運送物はないかと地方を回っていた時、縫製工場が自社の車でハンガーを使い東京のアパレル企業に納入している。満杯にならない時も、10着でも20着でも運んでいます。そんな矢先、工場がプレスしたファッション製品をハンガーにつるしたまま運んでくれないか、というお客様の要望があり、何社かを集めて運んであげたら喜んでくれるのではと考えました。75年以降福島県、宮城県、新潟県などの縫製工場を回って大手アパレル

企業にハンガーによる調達物流をやり始めました。ハンガー輸送、という新事業の誕生です。次いで大手アパレル企業からハンガー輸送で百貨店へ納められないかという相談を持ちかけられ、販売物流も手掛けるようになり、全国7都市に営業所をつくりました。私は宅配便事業が始まった頃にハンガー輸送によるファッション物流を開拓し、北海道から九州までハンガー輸送の拠点を作り、1着から届ける取り組みを行ったのです。80年代半ば、取引先の手アパレル企業から「たな運送だけでなく、保管や出荷加工までやっ

た。事業化が突然白紙に取引先の支援で独立ところが86年、あつた五月で物流センター完成という段階で、社長から突然「事業化中止」の命が下った。前年の85年9月のプラザ合意を契機に円高が加速し、日本経済に深刻な影響が表れて自動車部品の景気もドーンと下降し、投資を控えようということになったのです。事業化には設備投資に3億円、初年度の運転資金に1億円の合計4億円の投資が必要でした。

社長から「うまく断るよ」と言われたが、すでに倉庫会社とは契約し、ハンガー設備や自動搬送機も発注して完成間近で、私は困り果ててしまいました。お願いは行きましたところ、倉庫の解約料は家賃6カ月分と、機械・設備は仕入れた部材代などを含め合計1億円かかることになりました。

倉庫会社の提案は破格で、夢をつかむチャンスが目の前にあったが、結局は個人で4億円の借金を抱えることになりました。家庭には妻と子供2人を抱え、37歳の時建てた家のローンも大半が残っていました。長男の優一郎(現OTS社長)は高校1年生でした。親しい友人や、先輩に相談すると大半の方は「やめた方がいいよ。仮に失敗したら一生かかって返せないよ」と反対意見でした。最終的に妻が「やめて」と言ったら諦めようと思った。ところが「思ったとおりじゃなかったら、家を取られても、借金一つになっても構わないじゃないか」と背中を押してくれたので、私は小柄な妻から大きな勇気をもらい、起業を決断しました。

敬称略